



◆地域が育む『かごしまの教育』県民週間

鹿児島県では、毎年11月1日～7日の期間を“地域が育む『かごしまの教育』県民週間”として設定しています。これは、この期間に多くの県民の方々が学校開放等の行事に参加し、学校や子どもたちの様子を見ていただくことにより、これからの『かごしまの教育』について考えていただこうとするものです。

本町においても、この期間を『大崎町学校参観週間』と設定し、数多くの町民の皆様においでいただくことができました。

来年度も同じ時期に学校参観週間を設定いたしますので、お誘いあわせの上、ぜひ学校にお越し下さい。



▲ふれあいおかしづくり（野方小）



▲授業参観風景（持留小）



▲招待給食（菱田小）



▲文化祭展示（大崎第一中）

◆第54回県児童生徒作文コンクール審査結果

『第54回県児童生徒作文コンクール』において、大崎町から3名の児童が特選及び入選いたしました。

賞	学校名	学年	氏名	題名
特選	持留小学校	5年	岡元 拓己	ぼくの小さなエコ活動
入選	持留小学校	2年	岡元 隼斗	がんばるぞふろあい
	野方小学校	3年	上村 太郎	いのちのつながり

まぶい窓おしの庭 NO.1

《親の力は十人の教師にまさる》

～日々の親子のふれあいを大切に～

大崎町退職校長会 会長 中村 幸士郎

東日本大震災直後、テレビで私たちが目にしたのは、緊急事態の震災各地で人としての秩序をきちんと守って耐えて行動している人々の姿でした。

このような人間の成長には、子供の頃からいい環境やいい教育が大事です。

「かしく、やさしい心でたくましく生きる力を身につけたこどもに育ててほしい」と願う親と、「親に愛してほしい。喜んでほしい。」という強い思いを持つ子供たちは、家族としてふれあいながら成長していきます。

こどもの教育の成功の鍵は、この日常の親子のふれあいの中にあります。豊かな体験を通して学ばせ、「ほめること」・「励ますこと」を大事にして、勉強させればさせるほど伸びるものです。子供は、好奇心のかたまりのようなもので、いろいろな物事に興味を持ち、積極的に挑戦し、自分のものにしていきます。いいことも悪いことも『塵も積もれば山』となり、『三つ子のたましい百まで』のことわざとおりです。

学級担任をしていた時の教え子たちの同窓会に呼ばれた時の話です。親になった教え子たちは「私の子どもは、今でもナイフで鉛筆を削っています。」といます。私は、鉛筆削り器を教室に置かずナイフを使わせていました。

12月23日、大丸小学校の《親子凧作り教室》に招かれています。凧作りは竹をけずり、ひごを作ることから始まります。親が教え、子どもが学ぶ場をさらに増やしてほしいという学校の願いが感じられます。

～「幼少期から少年少女期における環境や教育の影響は大きく、最も強烈で強固」であり、「その後は本人の自覚や『やる気』、そして先生や友人などの周りの環境に左右される」～『子育ての大脳生理学』（高木貞敬著）とあります。

詩人のR・Wエマーソンは、「親は、子どもの成長に大きな影響力を持ち、『父（親）は、十人の教師に等しい』」と語っています。

日常の【親子のふれあい】の場を大切に、かしく・やさしく・たくましく育てたいものです。